

「優しさ」って、相手を気遣い、思い遣る心

メル友のあるお母さんから、お子さん（小学生）との次のようなやりとり（抜粋）のメールをいただいた。

【 昨晚の我が家の夕食の時の会話です。

末娘が“〇〇君が、死んだら焼いて骨になるって言ってたよ、ほんと？” “そうだよ”、“お母さんも死ぬの？”、“死ぬよ”、(ちょっと不安な顔)。“じゃ～、やさしい笑顔が見られなくなる～”、(嬉しいじゃありませんか\(-o~)/。

“眼には見えないけど、死んでもいつもおかあさんはあなたのそばにいるよ”、“ふ～ん”、(ちょっと 安心した顔)。

前にお話をした“千の風にのって”になってが勉強になって、なんか上手く話せはいけど、ちょっとだけ死後の世界を子供に優しく話すことが出来ました。

この私が分かりやすく子供に話が出来た事が、自分自身でもびっくり\(@ o @)/。

前の私では、こんな風に話すことが出来なかったと思うと感激でした。

夜になって、“おかあさん、一緒に寝よう”と言うので、私と布団に入ったら、急に、“おかあさん、死なないでね”と言うんですね。

私としてはびっくりしたものの、とりあえず、“おかあさんは、まだ、死なないよ。だから、あなたも死なないでね” “うん、死なないよ”と行ってくれました。

今夜も一緒に寝て、いのちについての絵本でもよんであげようかな。

子供とこうした会話が出来るようになったのも、あべさんのお陰で～す。ありがとうございます。】

「優しさ」って、「人」を「憂う」と書きますよね。

「憂う」とは、相手を気遣い、思い遣る心。

「心とは、相手を思い遣る想像力を通してしか、見えてこないもの」とか。

(脳機能からは、共感回路のなせる業か…。)

また、「優」って、「優れていること」でもありますよね。

この母子のご様子から、改めて「優しさ」ってどういうことかを気づかされた。

それにしても、子どもを抱擁し生きる元気（勇気）を与える「オ母サン」と云われるような存在は、やはり凄い！！

「親になることは易しい、親であることは難しい」と云われる所以か。